

2015年3月期 第2四半期 決算説明会

2014年11月5日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山下 正弘



- 2015年3月期 第2四半期 連結決算の概況
- 主力製品及び後発品の状況
- 研究開発パイプラインの状況
- 2015年3月期 連結業績予想と配当

2015年3月期 第2四半期
連結決算の概況

2015年3月期 第2四半期 連結決算の概観

(単位:億円)

	14年3月期 第2四半期 実績	15年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	509	511	+2	+0.5	-2
営業利益	62	46	-16	-26.2	-9
経常利益	65	49	-16	-25.0	-8
四半期純利益	44	35	-9	-20.5	-4

セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	14年3月期 第2四半期 実績	15年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	509	511	+2	+0.5	-2
◇医薬品事業	500	505	+5	+1.0	-1
	429	408	-21	-4.9	-13
新医薬品					
国内	417	404	-13	-3.1	-13
海外	12	3	-9	-71.3	-1
後発医薬品	52	78	+26	+50.3	+14
一般用医薬品他	20	20	0	-1.3	-1
◇ヘルスケア(スキンケア)事業	8	6	-2	-26.8	-1

	対前年	対予想	売上高増減のポイント
新医薬品	-21	-13	<ul style="list-style-type: none"> ▶薬価の引き下げ(杏林製薬:本体薬価ベース6%台)、後発医薬品の使用促進策等により主力品(ムコダイン、ペンタサ等)が前年に対して減少 ▶新製品フルティフォームは順調に進展(対前年+9億円、対予想+1億円) ▶米国での後発品発売(13年10月)によりガチフロキサシンの海外売上減少(現地売上:13年度上半期\$35MM、14年度上半期\$14MM)
後発医薬品	+26	+14	<ul style="list-style-type: none"> ▶主導的共同開発による他社受託ビジネス、自販における卸店ルート等の売上増

損益の概要(連結)

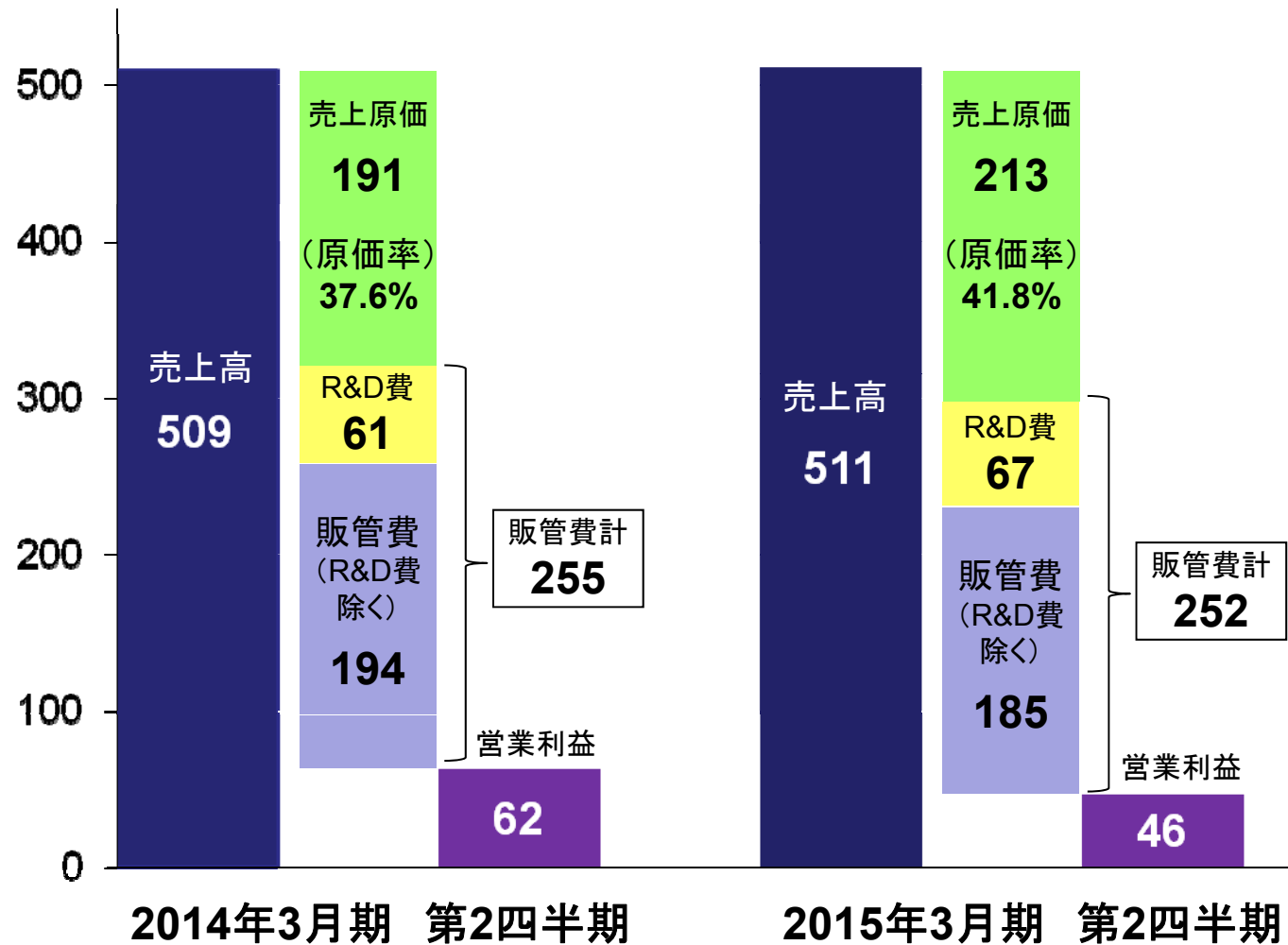
(単位:億円)

	14年3月期 第2四半期 実績	15年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	509	511	+2	+0.5	-2
売上原価	191	213	+22	+11.7	-
販売費及び一般管理費	255	252	-3	-1.4	-
R&D費	61	67	+6	+9.1	+10
販管費(R&D費除く)	194	185	-9	-4.7	-
営業利益	62	46	-16	-26.2	-9
経常利益	65	49	-16	-25.0	-8
四半期純利益	44	35	-9	-20.5	-4

	対前年	対予想	営業利益のポイント
営業利益	-16	-9	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上総利益：対前年-20億円(原価率が4.2ポイント上昇し、売上原価額が22億円増加) ・薬価の引き下げ(杏林製薬:6%台)、後発品の売上ウェイト上昇、ガチフロキサシンのロイヤリティ収入の減少。 また、主力製品(ムコダイン、ペンタサ等)の売上が予想を下回った。 ▶ R&D費：対前年+6億円(KRP-114V契約一時金の発生等により増加) ▶ 販管費(R&D費除く)：対前年-9億円(削減努力により販売費・人件費・一般経費等が減少)

2015年3月期 第2四半期 業績のポイント(対前年)

(単位:億円)



- 売上高は前年比2億円増
 - ・新医薬品の売上減少(国内外)
 - ・後発医薬品の売上増
- 売上原価額は22億円増 (売上原価率は4.2%上昇)
 - ・薬価改定の影響
 - ・後発医薬品の売上ウェイト上昇
 - ・海外新医薬品の売上減少
- 売上総利益は前年比20億円減
- 販管費は前年比3億円減
 - ・R&D費は6億円増 (ライセンス契約一時金等)
 - ・販管費(R&D費除く)は9億円減
- 営業利益は前年比16億円減

2015年3月期 第2四半期 主力製品の売上状況

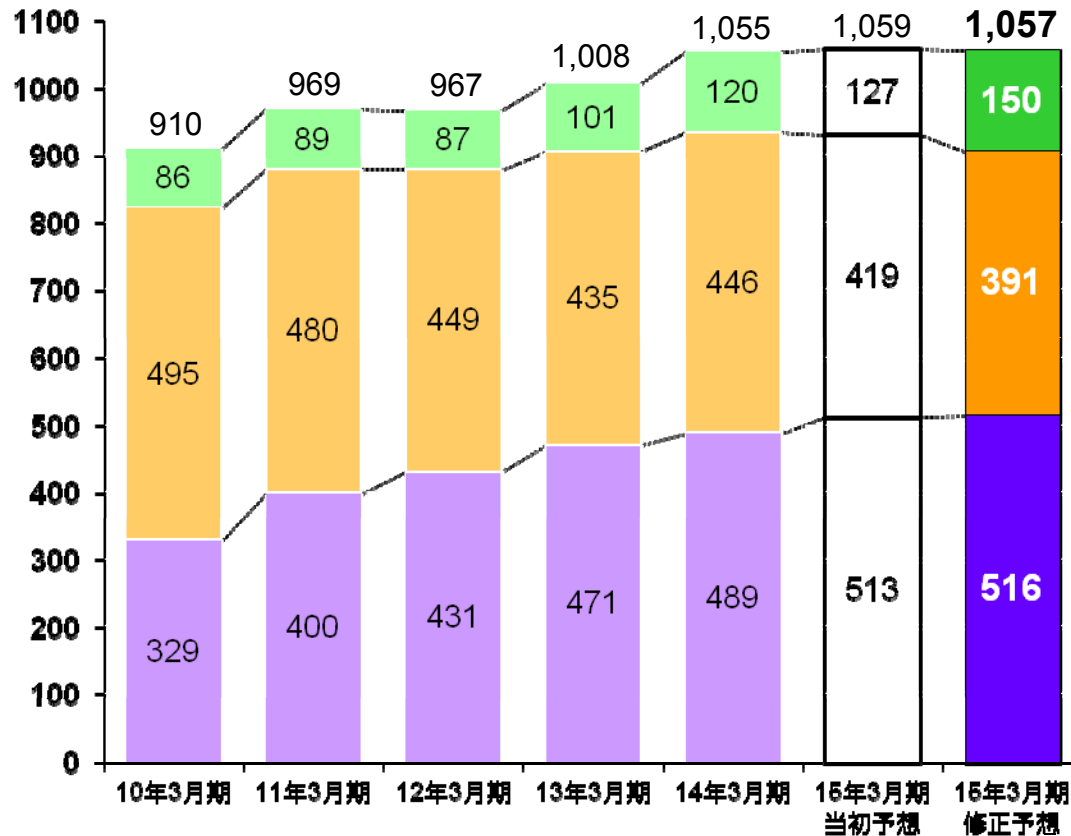


(単位:億円)

	14年3月期 第2四半期 実績	15年3月期 第2四半期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	171	174	+3	+2.0	+1
ムコダイン	82	62	-20	-24.8	-10
ペンタサ	94	86	-8	-8.1	-3
ウリトス	37	34	-3	-9.9	-3
フルティフォーム	—	9	+9	—	+1

主力製品及び後発品の状況

売上高(単位:億円)



- 新薬群 キプレス、ウリトス、フルティフォーム
- 先発品群 ムコダイン、ペンタサ他
- 後発品群

ファーマ・コンプレックス・モデル(PCモデル)の具体化

■ 新薬群

- ・主要製品の普及の最大化を図る
(キプレス、ウリトス、フルティフォーム)
- ・開発パイプラインの強化及び開発促進を目指す(KRP-AB1102)

■ 先発品群

- ・LCMIによる製品価値の向上とライフサイクルの延長を図る
(ムコダイン、ペンタサ)
- ・環境変化に対応し、収益確保を目指した生産のあり方を検討する

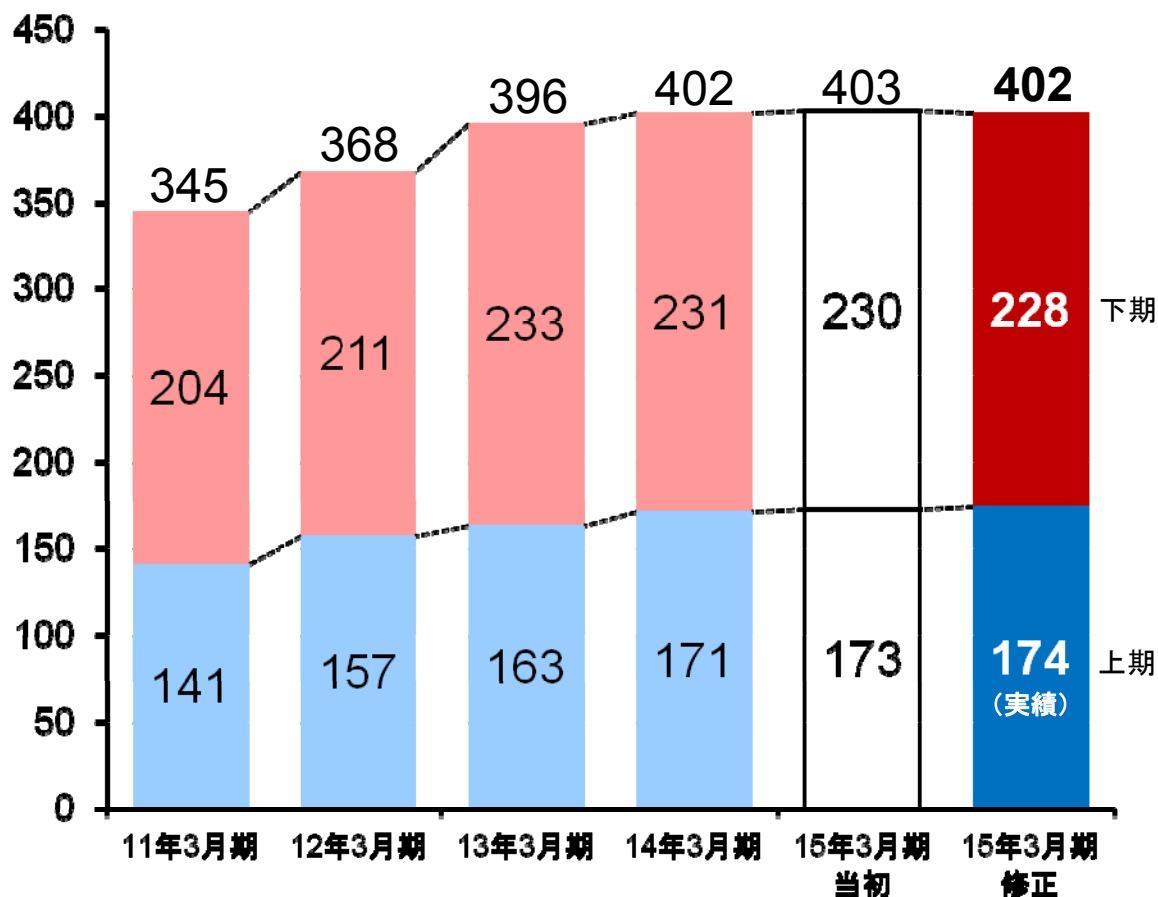
■ 後発品群

- ・国内外のアライアンス推進により原価低減、品揃えを図る
- ・グループ内での連携強化による特色あるジェネリック事業を推進する
- ・他社との主導的共同发展モデルを推進する

※LCM: ライフサイクルマネジメントの略

■新薬群 キプレス(気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)

売上高 (単位:億円)



➤2014年度上期の状況

- ロイコトリエン拮抗剤市場(薬価ベース)：約2%縮小
575億円(13年4-9月) ⇒ 562億円(14年4-9月) 注1
- キプレスの売上シェア
35.7%(13年4-9月) ⇒ 37.2%(14年4-9月) 注2

➤2014年度の取り組み

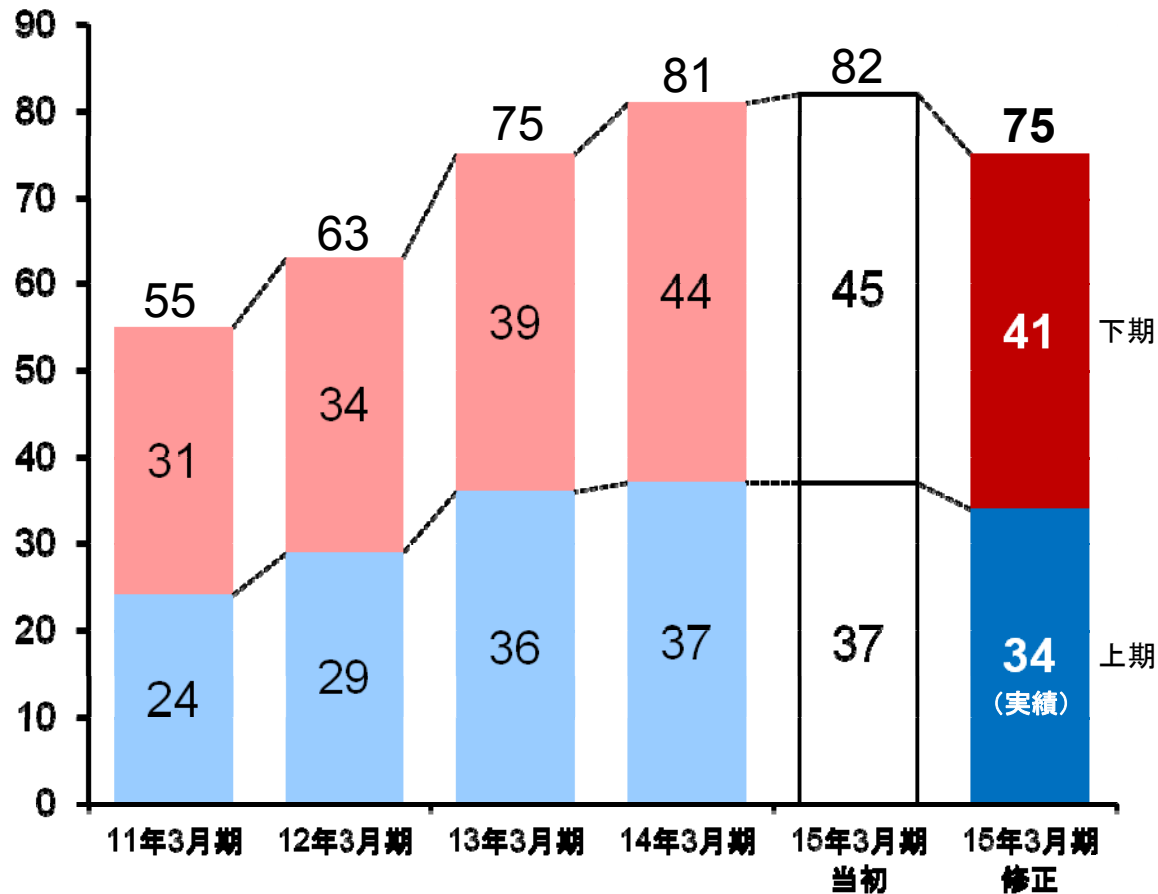
- アレルギー性鼻炎での処方拡大
 - ・通年性、季節性のベース薬としてのポジショニング確立
 - ・初期療法の重要性訴求
- 喘息患者さんへの更なる処方促進
 - ・強みの徹底訴求(鼻炎合併、経口剤メリット等)
 - ・新薬(フルティフォーム)と併せた処方提案、コール数のアップ

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲7.4%

注1,2(出典: Copyright 2014IMS ジャパン(株)IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■新薬群 ウリトス(過活動膀胱治療剤)

売上高 (単位:億円)



➤2014年度上期の状況

- OAB市場(薬価ベース): 約3%拡大
366億円(13年4-9月) ⇒ 378億円(14年4-9月) 注1
- ウリトスの売上シェア
11.0%(13年4-9月) ⇒ 10.3%(14年4-9月) 注2

➤2014年度の取り組み

- 「使い易さ」の浸透
 - ・エビデンスに基づく処方提案(BPHを有するOAB患者)
 - ・夜間頻尿への効果訴求
- 潜在市場の掘り起こし
 - ・潜在患者数 約925万人 / 受診率 約30% (2013年度)

※薬価改定率(本体薬価ベース): ▲0.4%

※OAB: 過活動膀胱の略

※BPH: 前立腺肥大症

注1,2(出典: Copyright 2014IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■新薬群 フルティフォーム(喘息治療配合剤)

➤2014年度上期の状況

2014年度 上期実績：9億円（上期予想+1億円）

	フルティフォーム50 エアゾール 56 吸入用 フルティフォーム125 エアゾール 56 吸入用	フルティフォーム50 エアゾール 120 吸入用 フルティフォーム125 エアゾール120 吸入用
製造販売承認取得	2013年9月	2013年9月
発売	2013年11月	2014年12月発売予定

➤2014年度の取り組み

2014年度 修正予想：39億円（当初予想+11億円）

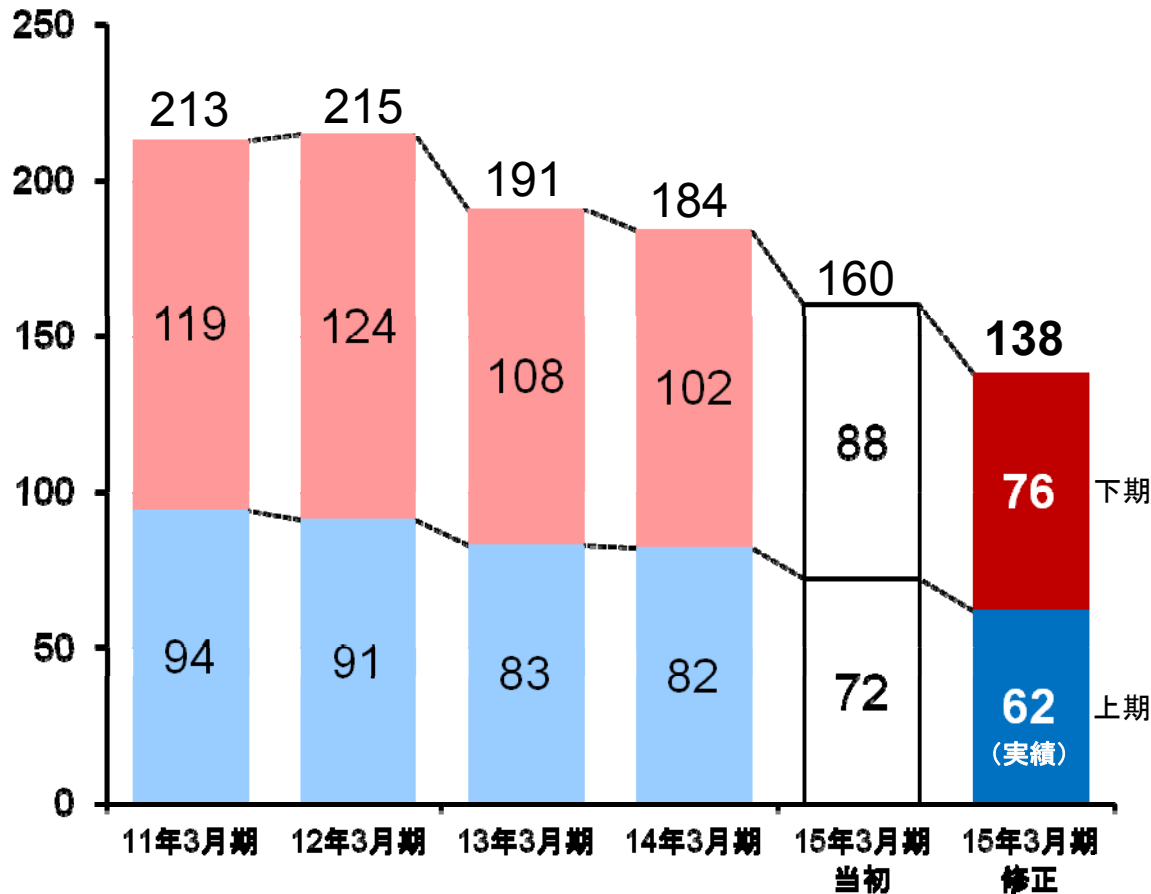
投薬期間制限解除を契機として30日製剤(120吸入用)を発売し
飛躍的な市場浸透を目指す

- ・喘息コントロールが不十分な患者さんへの処方推進
※長期管理薬を服用していても、60%~80%の患者さん(治療ステップ2~4)はコントロール不十分
- ・工夫したpMDI製剤の理解促進(吸いやすさ。中枢~末梢気道への薬剤到達)
- ・デバイスの吸入操作の簡便さを訴求



■先発品群 ムコダイン(気道粘液修復・粘膜正常化剤)

売上高 (単位:億円)



➤2014年度上期の状況

■去痰剤市場(薬価ベース) : 約11%縮小

200億円(13年4-9月)⇒177億円(14年4-9月) 注1

■ムコダインの売上シェア

45.8%(13年4-9月)⇒41.3%(14年4-9月) 注2

■ジェネリック(カルボシステイン)のシェア

6.8%(13年4-9月)⇒10.8%(14年4-9月) 注3

➤2014年度の取り組み

■「DS50%」の普及の最大化

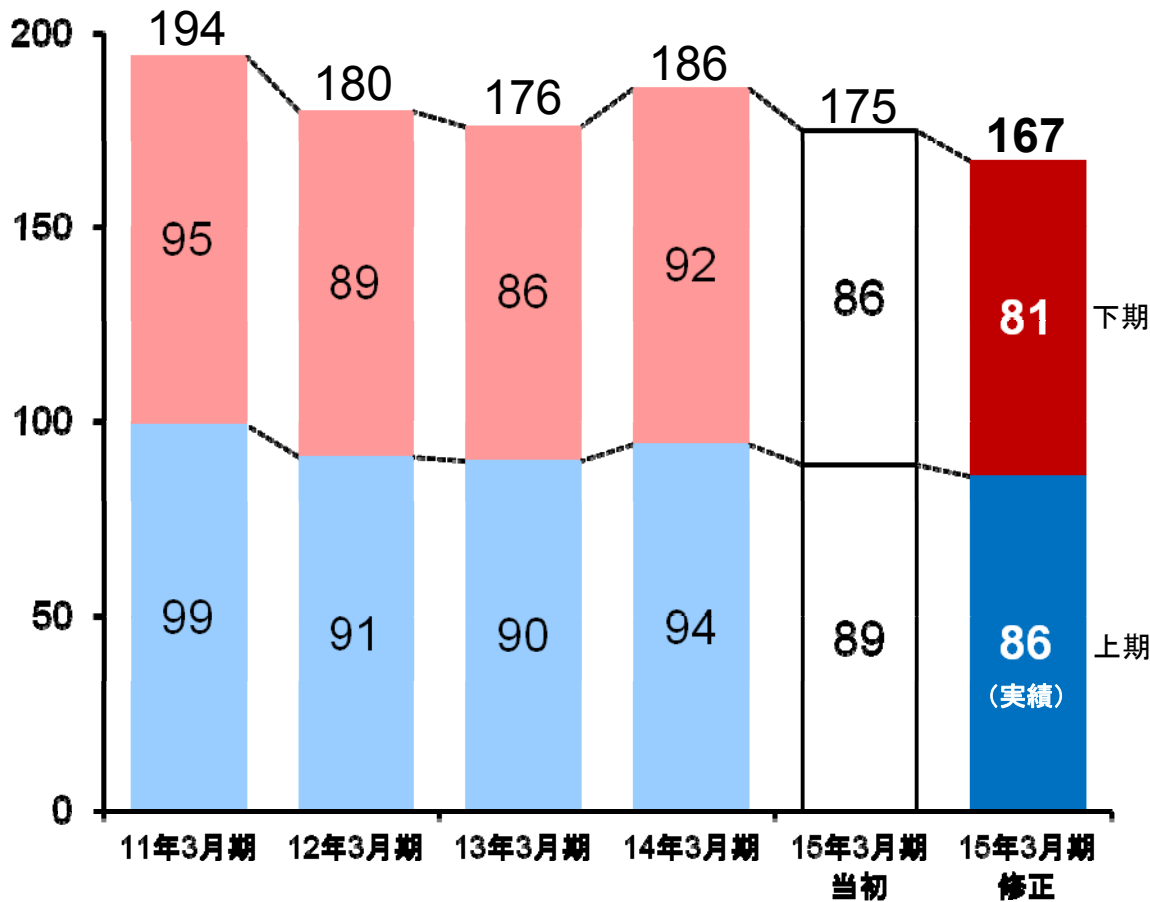
- ・上気道炎を中心に、小児、成人まで幅広く処方獲得
- ・エビデンスに基づく処方拡大(気管支喘息、慢性気管支炎等)

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲6.9%

注1,2,3 (出典: Copyright 2014 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■先発品群 ペンタサ(潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)

売上高 (単位:億円)



➤2014年度上期の状況

- 腸内抗炎症剤市場(薬価ベース)：約2%拡大
186億円(13年4-9月) ⇒ 189億円(14年4-9月) 注1
- ペンタサの売上シェア
53.9%(13年4-9月) ⇒ 51.6%(14年4-9月) 注2

➤2014年度の取り組み

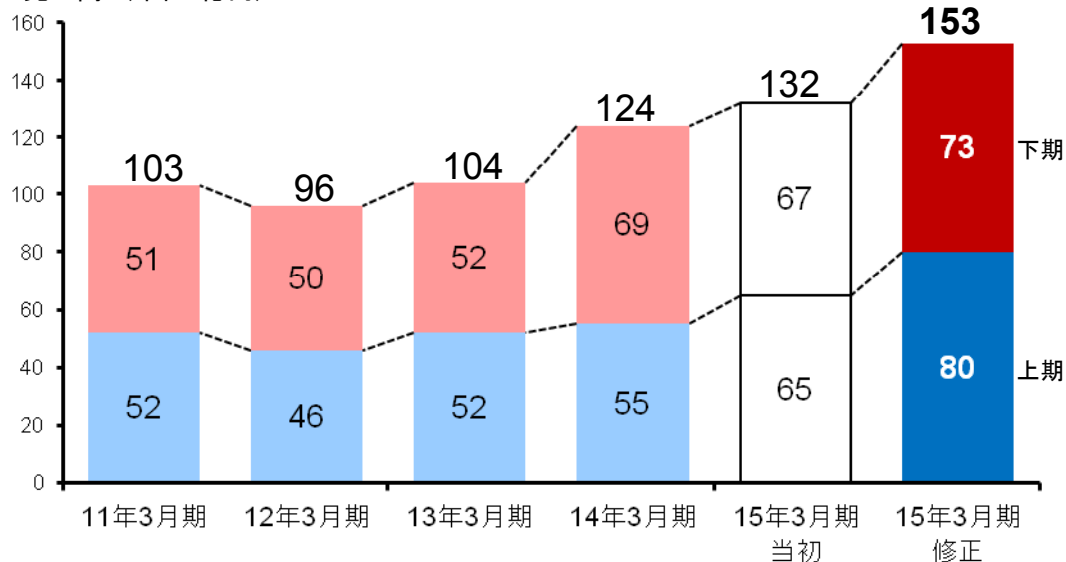
- ペンタサ坐剤の市場浸透
 - ・売上：上期実績9億円、通期予想17億円
- 活動期潰瘍性大腸炎での処方獲得
 - ・下痢にペンタサ錠剤、血便に坐剤・注腸剤
 - ・活動期：4g分2、寛解期：2g分1投与の訴求

※薬価改定率(本体薬価ベース) ▲7.5%

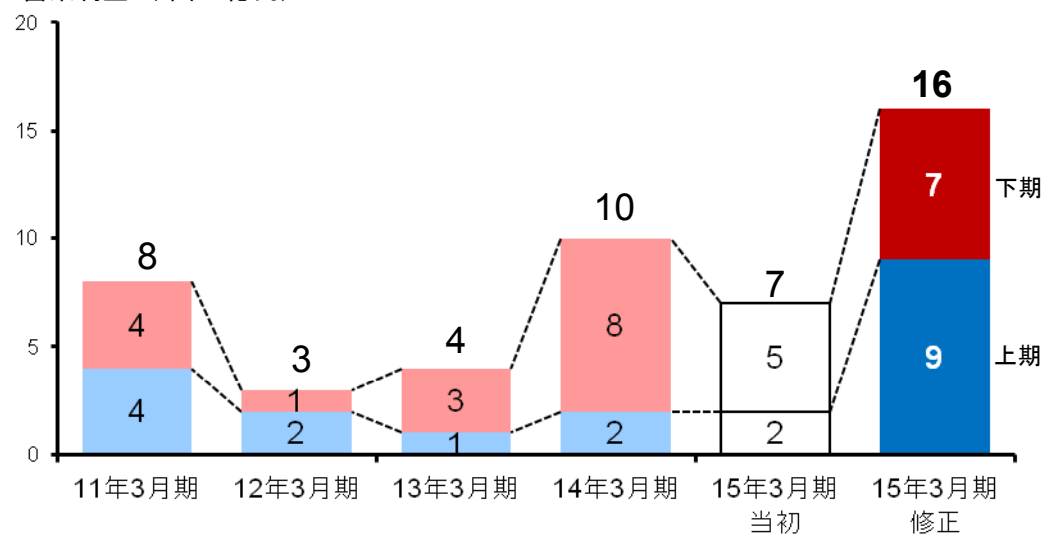
注1,2 (出典: Copyright 2014 IMS ジャパン(株)IMS -JPMをもとに作成 無断転載禁止)

■後発品群 キョーリン リメディオの状況

売上高（単位：億円）



営業利益（単位：億円）



➤2014年度上期の状況

- 売上高：80億円（前年比+25億円、+46.7%）
 - ・重点品、13～14年度発売の追補品が順調に進展
 - ・共同開発先からの受託生産の増加
- 営業利益：9億円（前年比+7億円、+313.9%）
 - ・稼働率上昇による原価率の改善

➤2014年度の取り組み

✓国内外アライアンスの推進

共同開発の促進、受託ビジネスの拡大

✓グループ内連携の強化

杏林製薬との販売面での連携強化、グループ生産体制の再構築

■売上高(通期予想)：153億円（前年比+29億円、+24.4%）










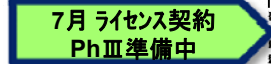









- ・重点品の売上拡大：ラベプラゾール、ドネペジル等
- ・追補品の上市と目標の完達
【12月追補予定品】レボフロキサシン錠、カンデサルタン錠

■営業利益(通期予想)：16億円（前年比+6億円、+64.9%）

- ・原価率の低減に取り組み、さらなる収益性の向上を目指す
- ・主導的共同開発の推進
自社主導の開発活動による費用の負担減、受託生産の推進

研究開発パイプラインの状況

開発パイプライン:2014年度の取り組み

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	フルティフォーム					13/11月上市(56吸入) 上市 (120吸入)
	KRP-AB1102					承認
	KRP-AB1102F					
泌尿器	KRP-114V			 7月 ライセンス契約 Ph III準備中		
耳鼻科	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X			 Ph III開始		
	KRP-AM1977Y		 6月 Ph II 開始			
IBD	KRP-203					

 2014年度 上期の進捗状況
 2014年度 下期の予定

※遺伝子治療用医薬品「Ad-SGE-REIC製剤」(対象疾病:悪性胸膜中皮腫)の開発着手(7月リリース)
※キプレス(新効能・効果:小児アレルギー性鼻炎、チュアブル錠・細粒)は、Ph III臨床試験において期待するプロファイルの達成が出来なかったため、開発を中止し一覧から削除(7月)
※KRP-EPA605につきましては、開発を中止し、開発品一覧から削除(11月)

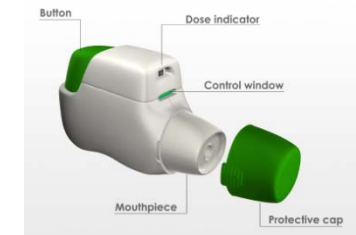
COPD治療剤「KRP-AB1102」「KRP-AB1102F」

■KRP-AB1102

- 薬効: 長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA)
有効成分: アクリジニウム (Acclidinium Bromide)
剤型: Dry Powder Inhaler:ドライパウダー吸入器 (Genuair)
効能効果: 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
用法用量: 1日2回
開発会社: Almirall,S.A.(スペイン)
特徴: ①アクリジニウムは血中において速やかに分解されることから高い安全性が期待される
②1日2回投与により1日を通して呼吸機能を改善しCOPD症状を緩和する
③操作が簡単で使いやすいデバイス(コンプライアンスの向上につながる可能性がある)

■KRP-AB1102F

- LAMAとLABA(長時間作用型 β 作動薬)の配合剤
LAMA:アクリジニウム
LABA:ホルモテロール



- ・「KRP-AB1102」は今年度中の承認取得を目指す(2014年3月申請済)
- ・「KRP-AB1102F」は早期の申請を目指す

患者数 : 推定患者数530万人(40歳以上の有病率8.6%) 実際に治療を受けている患者数22万人 ※1

COPD市場(抗コリン単剤および、 β 2刺激剤との配合剤の市場) : 約250億円(14年9月MAT) ※2

※1 出典:福地ら、NICE Study. 2001年、厚生労働省 患者調査2011年 ※2 出典:Copyright 2014 IMS ジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止

過活動膀胱治療剤「KRP-114V」

■日本国内における独占的な開発権及び製造販売権を取得

薬効：	選択的β3アドレナリン受容体作動薬
有効成分：	ビベグロン(Vibegron)
効能効果：	過活動膀胱(OAB)における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁
用法・用量：	1日1回
開発状況：	米国メルク社がPh II bまでの臨床試験終了(日本国内及び海外) 杏林製薬がPh III臨床試験を実施(日本国内)

■Ph II 臨床試験について

〔概要〕

- ・自覚的耳鳴患者、約400例を対象にPh II 臨床試験（二重盲検試験）を行った。
- ・主要評価項目はTHI-12※（投与開始時からの各評価時点における変化量）

※ THI : Tinnitus handicap inventory（耳鳴りの日常生活への支障度に関する質問票）

〔結果〕

- ・すべての評価項目で前値からの有意な改善効果は認められたが、プラセボ群との間に有意な差は認められなかった。
- ・サブグループ解析において、実薬群のプラセボに対する有意な改善効果が複数認められた。

〔今後の対応〕 特定患者集団で再度POC試験を実施することとした。

■新たな創薬技術への挑戦

対象疾患： 悪性胸膜中皮腫（死亡者数1400人（2012年）、2030～35年にピークを迎える）
特徴： がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導する遺伝子治療薬
アデノウイルスをベクター（運搬体）として使用
開発関連： 産学共同実用化開発事業（NexTEP）※2への採択
条件・期限付き承認制度※3（2014年11月施行予定の改正薬事法に基づき新設）

「条件・期限付き承認」を視野に入れ、早期の実用化を目指す

※1 岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子を使用する遺伝子治療用製剤

※2 独立行政法人科学技術振興機構（JST）が、大学等の研究成果に基づくシーズを用いて企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を目指す事業

※3 再生医療等医薬品（遺伝子治療医薬品含む）に関しては、症例数が少ない場合でも有効性が推定され安全性は確認された場合、特別に条件・期限付き承認を行う制度

FC戦略の推進と開発パイプラインの強化

呼吸器科	耳鼻科	泌尿器科	下部消化器 (IBD)
【COPD治療剤】 KRP-AB1102 KRP-AB1102F	【耳鳴治療剤】 KRP-209	【過活動膀胱治療剤】 KRP-114V	【クローン病治療剤】 KRP-203
【ニューキノロン系合成抗菌剤】 KRP-AM1977X、KRP-AM1977Y			
【遺伝子治療薬】 Ad-SGE-REIC			

自社創薬、アライアンス戦略によりパイプラインの拡充を図り
継続的な新薬の上市を目指す

2015年3月期
連結業績予想と配当

2015年3月期 業績予想(連結)

(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期 修正予想	対前年		対当初予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,114	1,117	+3	+0.3	-5
◇医薬品事業	1,097	1,100	+3	+0.3	-5
◇ヘルスケア(スキンケア)事業	17	16	-1	-7.1	-1
営業利益	176	138	-38	-21.6	-20
経常利益	183	143	-40	-21.8	-20
当期純利益	120	116	-4	-3.5	+3

		対前年	対当初 予想	増減のポイント
売上高	新医薬品	-27	-23	<ul style="list-style-type: none"> ▶フルティフォームを上方修正 ▶主力製品のムコダイン、ペンタサ、ウリトス等を下方修正 ▶ガチフロキサシンのロイヤリティ収入の減少
	後発医薬品	+30	+23	主導的共同開発による他社受託ビジネス、自販における卸店ルート等の売上増加を見込み、上方修正
営業利益		-38	-20	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上総利益：製品の売上構成が変化することにより売上原価額が増加(下方修正) ▶R&D費：対前年+22億円(対当初予想：+11億円) ▶販管費(R&D費除く)：販売費、人件費を削減
当期純利益		-4	+3	<ul style="list-style-type: none"> ▶特別利益：杏林製薬の旧本社ビルの土地・建物の譲渡に関わる利益 約45億円等 ▶特別損失：創薬研究所の跡地利用に関わる減損損失等 約16億円等

【参考資料：対前年のポイント】 ①売上原価率は約2.5ポイント上昇 ②販管費比率(R&D費除く)は約1ポイント低下 ③R&D費136億円(前年比+22億円)

2015年3月期 主要製品及び後発品事業の売上予想

(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 修正予想	対前年		対当初予想
			増減額	前年同期比(%)	増減額
キプレス	402	402	0	+0.1	-1
ムコダイン	184	138	-46	-24.6	-22
ペンタサ	186	167	-19	-9.9	-8
ウリトス	81	75	-6	-6.6	-7
フルティフォーム	6	39	+33	+578.0	+11
後発医薬品	120	150	+30	+25.1	+23

株主還元について

基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。
株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

当期純利益の推移

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (当初予想)	2015年3月期 (修正予想)
当期純利益	120億円	113億円	116億円

配当の推移

- ・2014年5月9日に公表しました配当予想の変更はございません。
- ・中間配当の20円につきましては、11月4日の取締役会で決議されました。

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (当初予想)	2015年3月期 (修正予想)
1株当たり配当金	52円 (うち中間10円)	52円 (うち中間20円)	52円 (うち中間20円)
連結配当性向	32.3%	34.4%	33.5%

新研究開発施設の建設について



【概要】

- 住所 : 現開発研究所敷地内(栃木県下都賀郡野木町1848)
着工 : 2014年1月着工済
竣工 : 2015年8月予定
運用開始 : 2015年10月予定

参考資料

損益計算書の概要(連結)①

(単位:百万円)

	14年3月期 第2四半期		15年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	50,851	100.0%	51,112	100.0%	+0.5%	+260
医薬品事業	50,040	98.4%	50,518	98.8%	+1.0%	+477
◆新医薬品	42,858	84.3%	40,755	79.7%	-4.9%	-2,102
○国内	41,697	82.0%	40,422	79.1%	-3.1%	-1,274
○海外	1,160	2.3%	332	0.6%	-71.3%	-828
◆後発医薬品	5,184	10.2%	7,790	15.2%	+50.3%	+2,606
◆一般用医薬品他	1,997	3.9%	1,972	3.9%	-1.3%	-25
ヘルスケア事業 (スキンケア)	810	1.6%	593	1.2%	-26.8%	-217

<当期のポイント>

対前年

■ 売上高 51,112百万円 (+260百万円)

● 国内新医薬品 40,422百万円 (-1,274百万円)

	14.3(2Q)		15.3(2Q)	(億円)
・キプレス	171	⇒	174	(+3)
・ムコダイン	82	⇒	62	(-20)
・ペンタサ	94	⇒	86	(-8)
・ウリトス	37	⇒	34	(-3)
・フルティフォーム	-	⇒	9	(+9)

● 海外新医薬品 332百万円 (-828百万円)

・ガチフロキサシン 10 ⇒ 1 (-9)

● 後発医薬品 7,790百万円 (+2,606百万円)

* 主導的共同開発による他社受託ビジネスの拡大
* 自販における卸店ルート等の売上増

● 一般用医薬品等 1,972百万円 (-25百万円)

● ヘルスケア(スキンケア) 593百万円 (-217百万円)

* ドクタープログラムの売上減少

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)
Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH
ActivX Biosciences, Inc.
キョーリンリメディオ(株)
キョーリンメディカルサプライ(株)
ドクタープログラム(株)
キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社： 日本理化学薬品(株)

損益計算書の概要(連結)－②

(単位:百万円)

	14年3月期 第2四半期		15年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	50,851	100.0%	51,112	100.0%	+0.5%	+260
売上原価	19,097	37.6%	21,340	41.8%	+11.7%	+2,243
売上総利益	31,754	62.4%	29,771	58.2%	-6.2%	-1,982
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	25,541 (6,119)	50.2% (12.0%)	25,183 (6,674)	49.3% (13.1%)	-1.4% (+9.1%)	-357 (+554)
営業利益	6,213	12.2%	4,587	9.0%	-26.2%	-1,625
営業外収益	337	0.6%	315	0.6%	-6.5%	-21
営業外費用	19	0.0%	5	0.0%	-71.3%	-14
経常利益	6,531	12.8%	4,898	9.6%	-25.0%	-1,633
特別利益	237	0.5%	29	0.1%	-87.7%	-208
特別損失	184	0.4%	32	0.1%	-82.5%	-151
税金等調整前 四半期純利益	6,584	12.9%	4,894	9.6%	-25.7%	-1,689
法人税・住民税 及び事業税	1,810	3.6%	1,692	3.3%	-6.5%	-118
法人税等調整額	376	0.7%	-292	-0.6%	—	-669
四半期純利益	4,397	8.6%	3,495	6.8%	-20.5%	-901

<当期のポイント>

◆原価率：前年比4.2ポイント上昇
(37.6%→41.8%)

- ・薬価改定(杏林製薬：本体薬価ベース6%台)
- ・後発医薬品の売上ウェイト上昇
- ・ガチフロキサシンのロイヤリティ収入の減少

◆研究開発費率：前年比1.1ポイント上昇
(12.0%→13.1%)

- * 61億円→67億円(6億円増加)
- 前年にKRP-209、KRP-108の費用があり今期は減少するも、KRP-114Vの契約一時金等が発生

◆販管費率(除くR&D費)：前年比2.0ポイント低下
(38.2%→36.2%)

- * 194億円→185億円(9億円減少)
- 削減努力により販売費・人件費・一般経費等の減少

■営業利益 4,587百万円 (-1,625百万円)
* 営業利益率は9.0%と3.2ポイント低下

■四半期純利益 3,495百万円 (-901百万円)

■配当(中間) 20円00銭

貸借対照表の概要(連結)

(単位:百万円)

	14年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	121,638	71.8%
現金及び預金	31,017	
受取手形及び売掛金	44,123	
有価証券	17,965	—
棚卸資産	21,699	
その他流動資産	6,833	
固定資産	47,740	28.2%
有形固定資産	20,841	
無形固定資産	1,198	—
投資その他	25,700	
資産合計	169,378	100.0%

流動負債	28,401	16.8%
支払手形及び買掛金	11,056	—
その他流動負債	17,344	
固定負債	3,155	1.9%
負債合計	31,557	18.6%
株主資本	135,273	79.9%
その他の包括利益累計額	2,548	1.5%
その他有価証券評価差額金	3,434	
為替換算調整勘定	12	—
退職給付に係る調整累計額	-898	
純資産合計	137,821	81.4%
負債及び純資産合計	169,378	100.0%

15年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
117,213	71.3%	-4,425
26,669		
36,655		
20,667	—	—
25,728		
7,492		
47,141	28.7%	-598
20,886		
1,276	—	—
24,978		
164,354	100.0%	-5,023

23,032	14.0%	-5,368
10,457	—	—
12,575		
2,284	1.4%	-871
25,317	15.4%	-6,240
135,629	82.5%	+356
3,407	2.1%	+859
4,313		
-30	—	—
-875		
139,037	84.6%	+1,216
164,354	100.0%	-5,023

<当期のポイント>

■流動資産：4,425百万円減

- ・現金及び預金の減少 (-4,347百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 (-7,467百万円)
- ・有価証券の増加 (+2,702百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+4,029百万円)
- ・その他流動資産の増加 (+658百万円)

■固定資産：598百万円減

- ・有形固定資産の増加 (+44百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+78百万円)
- ・投資その他の減少 (-721百万円)

■流動負債：5,368百万円減

- ・支払手形及び買掛金の減少 (-599百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-4,768百万円)

■固定負債：871百万円減

主な業績項目の推移(連結)

(単位:百万円)

	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期
売上高 (海外売上)	47,954 (1,023)	50,851 (1,160)	51,112 (332)
売上原価 (売上原価率)%	18,093 (37.7%)	19,097 (37.6%)	21,340 (41.8%)
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	23,591 (49.2%)	25,541 (50.2%)	25,183 (49.3%)
うち研究開発費 (研究開発费率)%	4,892 (10.2%)	6,119 (12.0%)	6,674 (13.1%)
営業利益 (営業利益率)%	6,269 (13.1%)	6,213 (12.2%)	4,587 (9.0%)
経常利益 (経常利益率)%	6,609 (13.8%)	6,531 (12.8%)	4,898 (9.6%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	4,295 (9.0%)	4,397 (8.6%)	3,495 (6.8%)
一株当たり当期利益(円)	57.49円	58.85円	46.78円
資本金	700	700	700
総資産	147,425	155,840	164,354
純資産	120,200	130,098	139,037
一株当たり純資産(円)	1,608.74円	1,741.24円	1,860.90円
自己資本利益率%	3.6%	3.4%	2.5%
自己資本比率%	81.5%	83.5%	84.6%
人員(人)	2,346人	2,481人	2,482人
設備投資	1,181	1,618	1,557
減価償却費	1,119	1,460	1,462

14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
111,400 (1,849)	111,700 (1,000)	112,200 (1,000)
43,047 (38.6%)	—	—
50,744 (45.6%)	—	—
11,359 (10.2%)	13,600 (12.2%)	12,500 (11.1%)
17,607 (15.8%)	13,800 (12.4%)	15,800 (14.1%)
18,281 (16.4%)	14,300 (12.8%)	16,300 (14.5%)
12,025 (10.8%)	11,600 (10.4%)	11,300 (10.1%)
160.95円	155.26円	151.24円
700	—	—
169,378	—	—
137,821	—	—
1,844.61円	—	—
9.0%	—	—
81.4%	—	—
2,452人	—	—
6,500	3,500	3,000
3,153	3,100	3,100

2015年3月期 第2四半期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	511	+2	46	-16
医薬品事業計	505	+5	45	-14
◆新医薬品	408	-21		
○国内	404	-13		
○海外	3	-9		
◆後発医薬品	78	+26		
◆一般用医薬品他	20	0		
ヘルスケア事業計	6	-2	0	-1
調整額	-	-	1	-1

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

損益計算書の概要：杏林製薬①

(単位：百万円)

	14年3月期 第2四半期		15年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	44,933	100.0%	43,922	100.0%	-2.3%	-1,011
医薬品事業	44,933	100.0%	43,922	100.0%	-2.3%	-1,011
◆新医薬品	41,311	92.0%	39,353	89.6%	-4.7%	-1,958
○国内	40,214	89.5%	39,107	89.0%	-2.8%	-1,106
○海外	1,097	2.5%	246	0.6%	-77.6%	-851
◆後発医薬品	2,216	4.9%	3,120	7.1%	+40.8%	+904
◆一般用医薬品他	1,405	3.1%	1,448	3.3%	+3.1%	+42

<当期のポイント>

- 対前年
- 売上高 **43,922百万円** (-1,011百万円)
- 国内新医薬品 **39,107百万円** (-1,106百万円)
- | | 14.3(2Q) | ⇒ | 15.3(2Q) | (億円) |
|-----------|----------|---|----------|-------|
| ・キプレス | 171 | ⇒ | 174 | (+3) |
| ・ムコダイン | 82 | ⇒ | 62 | (-20) |
| ・ペンタサ | 94 | ⇒ | 86 | (-8) |
| ・ウリトス | 37 | ⇒ | 34 | (-3) |
| ・フルティフォーム | - | ⇒ | 9 | (+9) |
- 海外新医薬品 **246百万円** (-851百万円)
- | | | | | |
|-----------|----|---|---|------|
| ・ガチフロキサシン | 10 | ⇒ | 1 | (-9) |
|-----------|----|---|---|------|
- 後発医薬品 **3,120百万円** (+904百万円)
- ・キョーリン リメディオ製品の売上増
- 一般用医薬品他 **1,448百万円** (+42百万円)
- | | | | | |
|-------|----|---|----|------|
| ・ミルトン | 10 | ⇒ | 10 | (0) |
| ・ルビスタ | 1 | ⇒ | 2 | (+1) |

損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	14年3月期 第2四半期		15年3月期 第2四半期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	44,933	100.0%	43,922	100.0%	-2.3%	-1,011
売上原価	15,609	34.7%	17,354	39.5%	+11.2%	+1,744
売上総利益	29,323	65.3%	26,567	60.5%	-9.4%	-2,755
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	23,748 (5,848)	52.9% (13.0%)	23,069 (6,334)	52.5% (14.4%)	-2.9% (+8.3%)	-678 (+485)
営業利益	5,575	12.4%	3,498	8.0%	-37.3%	-2,077
営業外収益	525	1.1%	459	1.0%	-12.4%	-65
営業外費用	12	0.0%	0	0.0%	-99.1%	-12
経常利益	6,087	13.5%	3,957	9.0%	-35.0%	-2,130
特別利益	235	0.5%	29	0.1%	-87.6%	-206
特別損失	32	0.0%	7	0.0%	-77.8%	-25
税引前四半期純利益	6,291	14.0%	3,979	9.1%	-36.7%	-2,311
法人税・住民税 及び事業税	1,689	3.8%	1,361	3.1%	-19.4%	-328
法人税等調整額	340	0.7%	-321	-0.7%	—	-662
四半期純利益	4,261	9.5%	2,940	6.7%	-31.0%	-1,320

<当期のポイント>

◆原価率：前年比4.8ポイント上昇
(34.7%→39.5%)

- ・薬価改定(杏林製薬：本体薬価ベース6%台)
- ・製品の売上構成の変化
- ・ガチフロキサシンのロイヤリティ収入の減少

◆研究開発費率：前年比1.4ポイント上昇
(13.0%→14.4%)

- * 58億円→63億円(5億円増加)
- 前期にKRP-209、KRP-108の費用があり今期は減少するも、KRP-114Vの契約一時金等が発生

◆販管費率(除くR&D費)：前年比1.7ポイント低下
(39.8%→38.1%)

■営業利益 3,498百万円 (-2,077百万円)

- * 営業利益率は8.0%と4.4ポイント低下

■四半期純利益 2,940百万円 (-1,320百万円)

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)

	14年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	92,209	70.4%
現金及び預金	15,098	—
売掛金	40,133	
有価証券	14,302	
棚卸資産	17,969	
その他流動資産	4,705	
固定資産	38,788	29.6%
有形固定資産	13,992	—
無形固定資産	385	
投資その他	24,410	
資産合計	130,997	100.0%

15年3月期 第2四半期末		
実績	構成比	前期末増減
88,501	69.7%	-3,707
12,752	—	—
32,915		
15,404		
21,428		
6,000		
38,443	30.3%	-344
13,809	—	—
428		
24,206		
126,945	100.0%	-4,051

<当期のポイント>

■流動資産：3,707百万円減

- ・現金及び預金の減少 (−2,346百万円)
- ・売掛金の減少 (−7,217百万円)
- ・有価証券の増加 (+1,102百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+3,458百万円)

■固定資産：344百万円減

- ・有形固定資産の減少 (−183百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+43百万円)
- ・投資その他の減少 (−204百万円)

流動負債	20,446	15.6%
支払手形及び買掛金	7,473	—
その他流動負債	12,973	
固定負債	944	0.7%
負債合計	21,391	16.3%
株主資本	106,211	81.1%
評価・換算差額等	3,394	2.6%
純資産合計	109,606	83.7%
負債及び純資産合計	130,997	100.0%

15,998	12.6%	-4,448
6,281	—	—
9,716		
659	0.5%	-285
16,657	13.1%	-4,733
106,033	83.5%	-178
4,254	3.4%	+860
110,288	86.9%	+681
126,945	100.0%	-4,051

■流動負債：4,448百万円減

- ・支払手形及び買掛金の減少 (−1,191百万円)
- ・その他流動負債の減少 (−3,257百万円)

■固定負債：285百万円減

主な業績項目の推移: 杏林製薬

(単位: 百万円)

	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期
売上高 (海外売上)	42,951 (974)	44,933 (1,097)	43,922 (246)
売上原価 (売上原価率)%	15,360 (35.8%)	15,609 (34.7%)	17,354 (39.5%)
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	21,680 (50.5%)	23,748 (52.9%)	23,069 (52.5%)
うち研究開発費 (研究開発费率)%	4,681 (10.9%)	5,848 (13.0%)	6,334 (14.4%)
営業利益 (営業利益率)%	5,910 (13.8%)	5,575 (12.4%)	3,498 (8.0%)
経常利益 (経常利益率)%	6,470 (15.1%)	6,087 (13.5%)	3,957 (9.0%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	4,240 (9.9%)	4,261 (9.5%)	2,940 (6.7%)
一株当たり当期利益(円)	57.10円	57.38円	39.60円
資本金	4,317	4,317	4,317
総資産	124,789	122,396	126,945
純資産	104,128	103,608	110,288
一株当たり純資産(円)	1,402.06円	1,395.06円	1,485.00円
自己資本利益率%	4.1%	4.1%	2.7%
自己資本比率%	83.4%	84.7%	86.9%
人員(人)	1,832人	1,797人	1,801人
設備投資	716	929	635
減価償却費	828	807	814

14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
97,662 (1,650)	97,100 (700)	98,500 (800)
35,119 (36.0%)	—	—
47,175 (48.3%)	—	—
11,064 (11.3%)	13,000 (13.4%)	11,800 (12.0%)
15,368 (15.7%)	11,500 (11.8%)	14,300 (14.5%)
16,230 (16.6%)	12,100 (12.5%)	14,900 (15.1%)
10,823 (11.1%)	10,200 (10.5%)	10,400 (10.6%)
145.74円	—	—
4,317	—	—
130,997	—	—
109,606	—	—
1,475.82円	—	—
10.2%	—	—
83.7%	—	—
1,780人	—	—
4,763	1,500	1,500
1,743	1,700	1,800

2015年3月期 第2四半期 業績と予想(連結)

(単位:百万円)

	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期	前年差額	前年比	14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
売上高	50,851	51,112	+260	+0.5%	111,400	111,700	112,200
医薬品事業	50,040	50,518	+477	+1.0%	109,678	110,000	110,500
◆新医薬品	42,858	40,755	-2,102	-4.9%	93,518	90,800	93,100
○国内	41,697	40,422	-1,274	-3.1%	91,668	89,700	92,100
○海外	1,160	332	-828	-71.3%	1,849	1,000	1,000
◆後発医薬品	5,184	7,790	+2,606	+50.3%	11,987	15,000	12,700
◆一般用医薬品他	1,997	1,972	-25	-1.3%	4,172	4,200	4,600
ヘルスケア事業 (スキンケア)	810	593	-217	-26.8%	1,721	1,600	1,700
営業利益	6,213	4,587	-1,625	-26.2%	17,607	13,800	15,800
経常利益	6,531	4,898	-1,633	-25.0%	18,281	14,300	16,300
当期純利益	4,397	3,495	-901	-20.5%	12,025	11,600	11,300

主な子会社の業績と予想

(単位: 億円)

杏林製薬	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期
売上高	449	439
営業利益	56	35
当期純利益	43	29

14年3月期	15年3月期 (修正予想)
977	971
154	115
108	102

15年3月期 (当初予想)
985
143
104

キョーリン リメディオ	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期
売上高	55	80
営業利益	2	9
当期純利益	1	6

14年3月期	15年3月期 (修正予想)
124	153
10	16
6	10

15年3月期 (当初予想)
132
7
5

ドクタープログラム	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期
売上高	8	6
営業利益	1	0
当期純利益	1	0

14年3月期	15年3月期 (修正予想)
18	16
2	0
2	0

15年3月期 (当初予想)
17
0
0

2015年3月期 第2四半期 主要製品の状況

(単位: 億円)

		12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期		14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
					実績	前 同 比			
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	157	163	171	174	+2.0%	402	402	403
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	91	83	82	62	-24.8%	184	138	160
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	91	90	94	86	-8.1%	186	167	175
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	29	36	37	34	-9.9%	81	75	82
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	18	15	15	11	-26.5%	28	21	25
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	—	—	—	9	—	6	39	28
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	8	9	10	1	-86.3%	15	5	5
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	9	10	10	10	-4.2%	21	19	20

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結)

(単位:百万円)

	12年3月期 第2四半期	13年3月期 第2四半期	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期	増減比	14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
研究開発費	6,075	4,892	6,119	6,674	+9.1%	11,359	13,600	12,500
設備投資	402	1,181	1,618	1,557	-3.8%	6,500	3,500	3,000
減価償却費	1,122	1,119	1,460	1,462	+0.1%	3,153	3,100	3,100

【設備投資の詳細】

(単位:億円)

	14年3月期 第2四半期	15年3月期 第2四半期	14年3月期	15年3月期 (修正予想)	15年3月期 (当初予想)
工場設備	8	9	19	21	16
管理・販売設備	4	2	7	6	7
研究用設備	4	4	39	8	7

開発品一覧①(2014年11月4日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2015年3月期第1四半期 7月29日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (14年3月)	(欧州) アルミール社 : 上市(12年9月) (米国) フォレスト社 : 上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ (13年8月)	(欧州) アルミール社 : 申請(13年10月) (米国) フォレスト社: 申請準備中	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA:アクリジニウム)と長時間作用性 β 2刺激薬(LABA:ホルモテロール)の配合剤	アルミール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ 準備中	(米国、欧州、他) 米国メルク社 : PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 メルク社	膀胱の β_3 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国メルク社とライセンス契約 (14年7月)

・キプレス(新効能・効果:小児アレルギー性鼻炎、チュアブル錠・細粒)は、PhⅢ臨床試験において期待するプロファイルの達成が出来なかったため、開発を中止し一覧から削除

開発品一覧②(2014年11月4日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

※: 前回(2015年3月期第1四半期 7月29日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (11年8月)	Ph III メルツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ノバルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調節剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph II (13年9月)		KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
Ph II (14年6月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社		

※KRP-EPA605につきましては開発を中止し開発品一覧から削除

- ・ 遺伝子治療用医薬品「Ad-SGE-REIC製剤」(対象疾病: 悪性胸膜中皮腫)を開発(予定)

■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。